

北見市における景気動向調査報告書

< 第 IV 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調 査 時 点 平成 21 年 4 月 8 日

(2) 調査対象期間 平成 21 年 1 月～3 月期実績および平成 21 年 4 月～6 月期見通しについて調査した。

2. 調 査 対 象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の 5 業種 150 社を往復ハガキにより調査した。

3. 回 収 状 況

業 種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回 答 率
製 造 業	30 社	23 社	76.7%
建 設 業	30 社	29 社	96.7%
卸 売 業	30 社	26 社	86.7%
小 売 業	35 社	23 社	65.7%
サービス業	25 社	18 社	72.0%
合 計	150 社	119 社	79.3%

注) 本調査結果の中で、D・I 値とある記号は、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

II . 概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成20年度第IV四半期平成21年<1月～3月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」10.1、「悪化企業」64.7、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△54.6となっています。

このD・I値を前年同期と比較してみると、前年同期△53.6→今期△54.6と1.0ポイントの悪化傾向を示しています。また、前期調査<20年度第III四半期>(平成20年10月～12月)との比較でも、前期△50.0→今期△54.6と4.6ポイントの悪化を示し、この3年間で一番厳しい結果を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△39.2、建設業D・I値△62.1、卸売業D・I値△53.8、小売業D・I値△43.5、サービス業D・I値△77.7となっており、前年同期と比較すると製造業が15.0、小売業が4.1、サービス業が1.2ポイントの好転を示し、建設業が14.3、卸売業が10.3ポイントの悪化傾向を示しております。前期調査と比較すると、製造業が10.8、小売業が8.5、サービス業が4.6ポイントの好転、卸売業が29.8、建設業が10.4ポイントの悪化傾向を示しています。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」6.7%、「悪化企業」66.4%でD・I値△59.7%と、前年同期見通し(△48.6)に比べ11.1ポイントの悪化傾向を示しています。前期調査(△66.4)との比較では6.7ポイントの好転傾向を示しておりますが数値は高く、前期に引き続き予断は許さない厳しい来期見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」13.0%、「減少企業」43.5%、D・I値△30.5と前年同期に比べ26.1ポイントの大幅な好転傾向ですが、前期調査との比較では1.4ポイント悪化を示しており、3期連続で好転していたのが今期で停滞傾向を示しました。

採 算

前年比で「好転企業」9.1%、「悪化企業」63.6%、D・I値△54.5と前年同期に比べ8.7ポイントの悪化、前期調査との比較ではほぼ横ばいですが0.3ポイントの悪化を示しています。

来期見通し

業況D・I値△52.1、生産高D・I値△47.9、資金繰りD・I値△52.1と、前年同期に比べ全てのD・I値が悪化傾向を示し、特に資金繰りD・I値は10.4ポイントの悪化傾向を示しています。前期調査との比較では生産高D・I値以外の来期見通しは2～6ポイントの好転傾向を示していますがまだ数値も高く、予断の許さない見通しと

なっています。

2) 建設業

完成工事高 前年比で「増加企業」14.8、「減少企業」70.4%、D・I値△55.6と前年同期に比べ28.4ポイントの大幅な悪化傾向を示しています。

採算 前年比で「好転企業」10.7%、「悪化企業」60.7% D・I値△50.0と前年同期に比べ6.5ポイントの悪化、前期調査との比較でも22.5ポイントの好転傾向を示しています。

来期見通し 業況D・I値△82.8、完成工事高D・I値△86.2、資金繰りD・I値△62.0と、前年同期に比べ全てのD・I値が悪化傾向を示し、特に完成工事高D・I値ともに17.1ポイントと高い数値を示し、先の見えない大変厳しい来期見通しとなっています。

3) 卸売業

売上高 前年比で「増加企業」11.5%「減少企業」57.7%、D・I値△46.2と前年同期に比べ28.8ポイントの大幅な悪化傾向を示しています。なお、前期調査との比較でも30.2ポイントの大幅な悪化傾向を示し、ここにきて大幅な悪化傾向を示しました。

採算 前年比で「好転企業」15.4%、「悪化企業」42.3%、D・I値△26.9と前年同期に比べ25.3ポイントの好転傾向を示しています。また、前期調査との比較でも9.1ポイントの好転傾向を示しています。

来期見通し 業況D・I値△34.7、売上高D・I値△42.3、資金繰りD・I値△38.5と、前年同期に比べ業況D・I値は横ばいですが他のD・I値は12~16ポイントの悪化傾向を示しています。前期調査との比較では業況・売上高D・I値は17~25と大幅な回復傾向ですが、資金繰りD・I値は△2.5の悪化を示しており、他業種より数値は高くないものの予断の許さない来期見通しとなっています。

4) 小売業

売上高 前年比で「増加企業」26.1%「減少企業」52.2%、D・I値△26.1と前年同期と比べて26.3ポイントの大幅な好転傾向を示しています。前期調査との比較でも21.9ポイントと、前回から再び好転傾向を示しました。

採算 前年比で「好転企業」18.2%「悪化企業」59.1%、D・I値△40.9と前年同期と比べて2.1ポイントの好転、前期調査との比較でも15.1ポイントの好転を示しており、

前期悪化傾向を示したものの再び好転傾向を示しています。

来期見通し

業況D・I値△60.8、売上高D・I値△52.2、資金繰りD・I値△52.1と前年同期と比べ、全てのD・I値は12～20ポイントの悪化傾向を示しています。前期調査との比較では、業況D・I値18.4、売上高D・I値30.0、資金繰りD・I値10.4と全て大幅な好転傾向を示しており、5期ぶりに好転傾向を示しましたがまだ数値は高く、引き続き厳しい来期見通しとなっています。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」5.6%、「減少企業」83.3%、D・I値△77.7と前年同期と比べ1.2ポイントの好転傾向を示しています。前期調査との比較でも4.6ポイントの好転傾向を示しておりますがほぼ横ばいで、数値も非常に高く依然として大変厳しい状況を示しています。

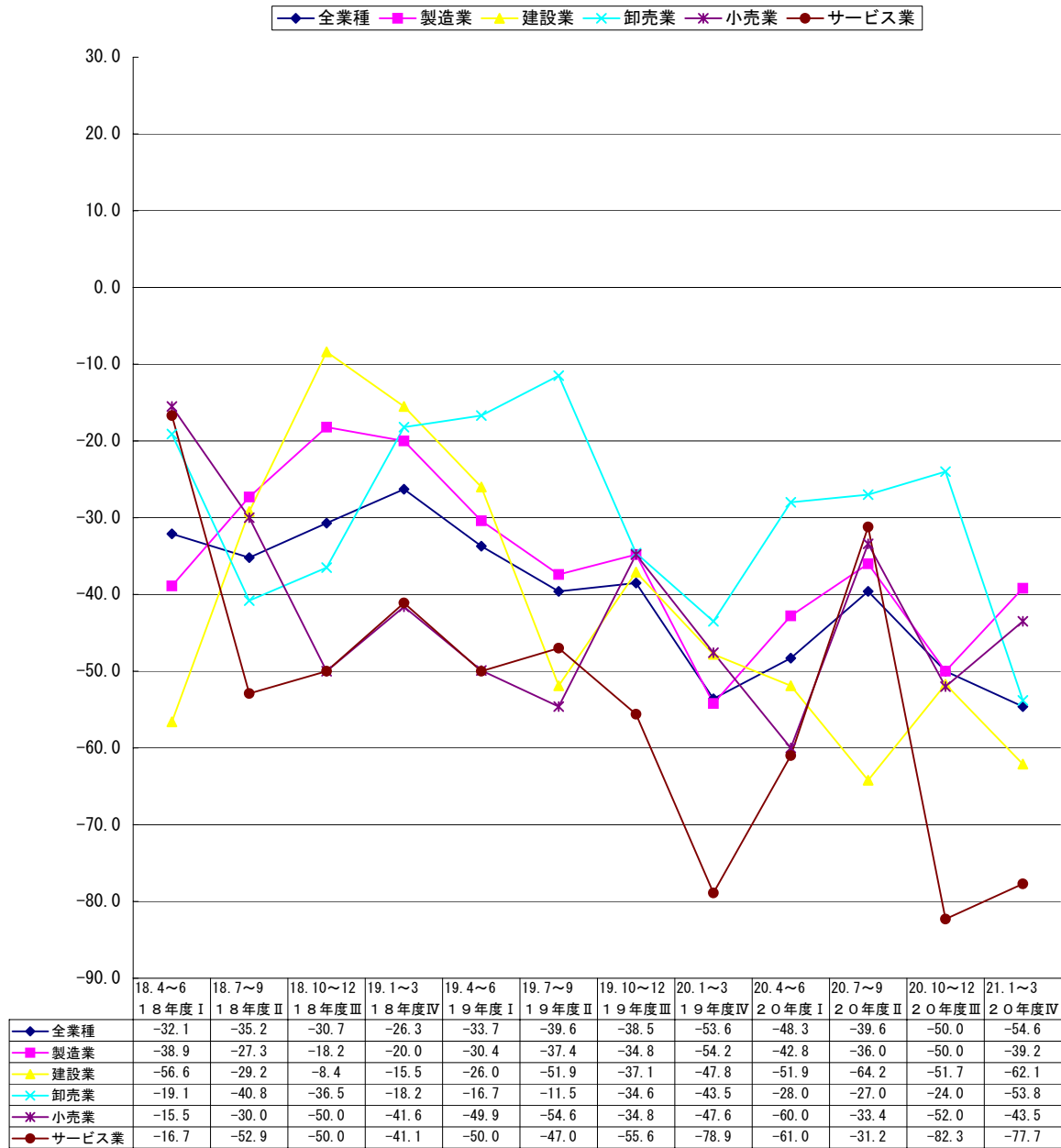
採算

前年比で「好転企業」5.9%、「悪化企業」70.6%、D・I値△64.7と前年同期と比べ8.9ポイントの好転傾向を示しており、前期調査との比較でも17.6ポイントの好転傾向を示しましたが数値は高く、引き続き厳しい状況を示しています。

来期見通し

業況D・I値△66.6、売上高D・I値△72.2、資金繰りD・I値△49.9と、前年同期と比べ資金繰りD・I値は5.6ポイントの好転傾向を示したものの他のD・I値は横ばいで、前期調査との比較でも売上高D・I値が13.4ポイントの悪化傾向を示しており、まだ数値も高く、引き続き厳しい来期見通しとなっています。

業況（前年同期比）



業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 件 費 増	売掛金回収難
建 設 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足
卸 売 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	売掛金回収難	人 件 費 増
小 売 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	売掛金回収難	資 金 調 達 困 難
サービス業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	資 金 調 達 困 難	人 件 費 増
合 計	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 件 費 増	売掛金回収難

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○ 前年同期と比較すると、全体として「得意先減少」と「売掛金回収難」が増加し、「諸経費増」が減少している。業種別でも、今回は1～3位までは同じ順位になったが、前年同期の卸売業では「得意先減少」は3位だったが今回1位にあがっている。全体を通して4、5位では「売掛金回収難」「資金調達困難」が前期よりさらに増加しているのが目立ってきており、全体の5位が「売掛金回収難」となっていることにも表れている。

※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

(製造) ○オーダーなし・売上減少 (木材)

(建設) ○市場の低迷、競合は一段と増すことが予想され、さらなる損益分岐点の見直しが急務
(建築)

○建材店のグローバル受注の影響による受注減少 (板金)

(卸売) ○価格競争による利益率の低下 (肥料)

(サービス) ○地方客の減少 (飲食)